

夢発表会

先月6月14日、仲間の主催するイベント、「高校生夢発表会」があり、事前から告知等協力し、当日も終日お手伝いさせて頂いた頂きました。感動いっぱい素晴らしい場に立ち合わせていただいたことに心より感謝し、ここに少し感想を寄せさせて頂いたきます。

大ホール会場、大勢の前で、5名の高校生3年生の皆さんは、緊張をみせながらもそれぞれに思いの丈を堂々と発表してくれました。今回の発表者になるというまでの段階で多くの葛藤もあったと思いますが、断らず、諦めず、最後は自分で決めて苦勞して準備して、こうしてやり切ったという後の充実感は一とお、大きな自信にもなったことでしょう。発表後の司会とのやり取りの際の笑顔は、みな最幸でした。まずはこのご縁の過程を有難く振り返り、サポートしてくれた方々など、今後に向けてしっかり大事にしてほしいと思います。

それぞれに、「なぜその夢を持ったのか」という「きっかけを与えてくれた出来事や大切な人との出逢い」があったことが、皆メッセージにしっかりと込められていました。夢を口に出して多くの人に直に聞いてもらったことで、今回多くの夢サポーターに出逢えました。後には引けません。全力で向かってください。

こうして「もったこんなふうになつたらいいな」という「誰かのために」という同じ想いを持った人と人が出逢うと、そこには目には見えない熱い化学反応が起き、必然的にも凄くエネルギーが生まれます。夢へ向かって一歩づつ歩むなかで、これから先も多くの人との出逢いを大切に、そして将来は、自分の経験から「誰かの喜びのために」という熱い想いを人に伝えられるような人になってほしいと思います。

主催の塾経営者、帆足二郎さんは、18歳の時に父親が自らの命を絶つという出来事があり、その後大変な苦勞をされたそう

です。そして、子どもたちの目を輝かせることができる、その夢を育てられる、応援できるというこの仕事に出会って、まさに『天職』志事』だと実感して、無償でもやりたいと感じたそうです。この夢発表会は、3ヶ月に一度開催予定で次回は9月。ご案内します。ぜひ日本の未来を担う子どもたちの輝いている姿に立ち会い、その夢の共有、応援をよろしく願います。

夢発表会という場にふさわしい、二組の素晴らしいライブもありました。オープニングには、秦野市出身の望月翔太さんがプロデュースする、女性3名のボーカルユニット「Canon'sカノン」。

そしてラストを飾ったのは、中学2年生の時に大阪城ホールでB, z (ビーズ) のライブを観て描いた夢を、17年かけて一昨年2013年4月8日、大阪城ホール単独公演ライブという形で実現、昨年末発売のフルアルバムから、現在カラオケでも5曲を配信中の「ロックバンドおかん」のライブ。会場全員が総立ち、拳を振り上げ叫びながらの熱いライブ。そして、ボーカルのDAIの魂深くに響く語り。いつもながら凄く盛り上がりで最幸のステージでした。

望月プロデュースを 全力で応援します！

秦野市制施行60周年記念事業でテーマソング「丹沢はだの三兄弟」の歌と踊りも企画・制作した望月プロデュースCanonですが、彼女たちの夢は、武道館。そして、プロデュースする望月君は日本一の作家になること。たぐさんのライブを無料で敢行、無料のCD配布を続けてきたなかで、この夢を叶えるために現在、大きな宣言を断行中です。

それは、まずは何より有名にならなければ「フェイスブックで10000いいね！を達成するまで、以下の三つの行動をすべて禁ずる」というもの。

- ① 望月の秦野への帰省
- ② 望月とメンバーの面会
- ③ 代表曲PRIDEの歌唱、演奏

現在、望月君は全国都道府県へのPR活動で、自ら一人で日本一周の弾き語り旅中。(北海道を一ヶ月で4千キロ→東北へ)

費用の余裕も全くない中、凄く行動力です。望月プロデュースは他にも2組。その素晴らしい歌をぜひ、多くの方に聴いてもらいたいと私も全力で応援しています。今後、ライブ主催の機会も設けようと思います。YOUTUBEで「望月プロデュース」で検索、ぜひ、お聴きください。皆さん、応援とフェイスブックでの「いいね！」をどうぞよろしく願います！

◎5日発行の「チケプレ」にて、15曲入のCanonフルアルバムを10名様にプレゼント！ぜひ、ご応募ください！

◎4月号で紹介した、たまちゃん先生。6/22に島根県出雲市にて開催され、会場が涙と感動の渦につつまれた「たまちゃん語る会」の講演CDプレゼントもやります。お楽しみに！

今日から使える さととり世代の動かし方

「さととり世代」とは、堅実で高望みをしない、現代の若者気質を表す言葉。1980年代半ば以降に生まれ、主に「ゆとり教育」を受けた世代に当たるそうです。その「さととり世代」には、昔ながらの熱血と根性指導は通用しないどころか、逆効果なようです。では、どんな教え方が良いのでしょうか。

実際に、さととり世代の子どもたちから無限の能力を引き出した教えが、この度、書籍で公開されました。(秀和システム刊)

いまだきの子のやる気に火をつけるメンタルトレーニング

わづか半年で甲子園に！名門高校を復活させた「言葉の使い方」とは？

飯山暁朗 mental coach

1,400円+税

「いまだきの子のやる気に火をつけるメンタルトレーニング」(著者 飯山暁朗 (いいやま・じろう) メンタルコーチ・経営コンサルタント)

高校野球のメンタルコーチや、大学の非常勤講師、企業の新人研修などで数多くの「さととり世代」と接し、数々の実績を上げている著者が教える、「さととり世代」の若者を動かすコミュニケーション術。

2014年夏、甲子園切符のかかった石川県大会決勝。0対8という圧倒的ビハインドで迎えた最終回で、球史に残る大逆転劇が生まれた！

苦境に負けない強い心をつくったメンタルトレーニングの秘密。わづか半年で甲子園に名門高校を復活させた「言葉の使い方」とは？

- 「なぜできないんだ？」ではなく、「なにが原因だ？」と聞く
- 「他人のせいにするな！」と叱るのではなく「そうか」と受け止める
- 「感謝の気持ちを持って」ではなく「恩返しをしたい人は？」と聞く
- 「努力します」ではなく「やります！」とかわせる
- 「気合いを入れろ！」ではなく「笑顔で行こう！」と言う
- 「反省しろ」ではなく「気持ち切り替える」と言う

「さととり世代」が満載です！

実はこの教えは、昨年末12月号で紹介したあの、甲子園で2連覇した駒大苫小牧野球部や北京五輪金メダルの日本ソフトボールチームの指導など、スポーツのみならず、ビジネス界でも多数の実績のある西田文郎先生の画期的な潜在能力プログラム『SBT(スーパーブレイントレーニング)理論』によるものです。

近年、SBT認定コーチの方との出逢い、ご縁も多くなりました。今夏の大会、第2シードの地元、平塚学園もSBTがサポート。活躍がとても楽しみです。

☆最後に話題の書籍をもう一冊
読んだら忘れない読書術
精神科医 樺沢紫苑著(サンマーク出版)

「読んだつもり」では「自己満足読書」で何の意味もない。本から得た知識をどのように定着させるか？そのコツは？

- ◎4つのアウトプットで記憶に残す
 - ①メモをとる、マーカーでラインを引く
 - ②本の内容を人に話す、人に勧める
 - ③感想や気づき、名言をSNSでシェア
 - ④Facebookやメルマガに書評やレビュー
- この4つのうち一週間以内に3つ行う電車ではスマホは最大の時間の無駄
- 「スキマ時間」だけで月に30冊も読める
- ◎「速読」より「深読」→「内容を議論できる水準」までの読書の質を確保

編集後記

我が家には御仏壇はないのですが、6年前に他界した義父、昨春他界した父親の位牌(父の方は自分が戒名を筆書きしたお札)と写真に毎日お水を変えてお線香をあげ、有難くお参りさせて頂いています。

先月の父の日の朝には、灰のなかの線香の燃え残りを綺麗に取り除き、心を込めて気持ちよく合掌させて頂きました。

小林正観先生の言葉に「私たちができることは、感謝だけ。感謝の心を惜しみなく投げかけていくことが、徳」とありました。おかげさまで日々守っていたら、感謝する毎日、その感謝を向けるべき第一は、両親、先祖であり、つながる宇宙、サムシング・グレートなのでしょう。そのように理解したら、恩返しするべき人がすでに亡くなられていても、日々の合掌と、これまでご縁やお世話をいただいた方たちへの恩返しを、そして、その想いを家族や有難く出逢った人たちへと恩送りしていくことこそが、これからの若い世代の人たちに向けた私たちに与えられた使命であると実感できます。

まず、今あることに感謝して、「目の前のあなた」の笑顔のために自分にできることを最大限に。一日一生、今日を全力で！